

地区名	稲津地区	番号	1
タイトル	老人憩の家（寿楽荘）のインターネット環境の整備について		
ご意見の内容			
<p>現在、稲津長寿会はカラオケ部を作り、老人憩の家（寿楽荘）において活動しています。</p> <p>カラオケを通じて健康長寿を全うするため、また、認知症予防などに日々努めています。</p> <p>しかし、社会福祉協議会の備品は老朽化しており、現在は、個人所有のカラオケ器具を利用していますが、この機械もすでに老朽化して故障するなどの状況にあり、カラオケメンバーも減少の傾向にあります。</p> <p>こうした中、近頃はパソコンによるカラオケが普及しており、専用のカラオケ機器を購入することなく利用できる上、新しい曲等の取り入れも容易にできるため、老人憩の家（寿楽荘）のインターネット環境の整備を切にお願いするものであります。</p> <p>今後も健康で楽しく老後が暮らせるよう、また多くの仲間づくりの観点からもお願いいたします。</p>			
市長の回答	担当課	高齢福祉課	
<p>健康長寿の推進、認知症に関する取り組みは、本市の高齢者福祉施策の重点施策となっています。積極的に取り組んでいただいていること、大変素晴らしいことであると感じます。</p> <p>市内3箇所にある老人憩いの家でも様々な介護予防事業を行っていますが、時代の流れとともに事業を展開していくことは必要であることから、フリーWi-Fiが利用できるインターネット環境の整備を進めます。</p>			

地区名	稲津地区	番号	2
タイトル	モノより心 駅北開発への疑問		
ご意見の内容			
<p>私の息子（40歳）に、「今までで一番良かった舞台は何？」と聞くと、間髪入れずに答えるのは劇団こまつ座 井上ひさし『11匹のねこ』です。いつもお腹をすかせていた野良猫たちが、ユートピアを求めて大冒険の旅に出る。お腹をいっぱいにする目的を果たしたその後は・・・？登場人物が「ネコ」で、痛烈なメッセージも「言葉遊び」と「音楽に乗せて」語られることで、俯瞰的に楽しめるすばらしい舞台でした。私たち親子にとってかけがえのない時間が持てました。こんな素晴らしい経験が得られたのは、瑞浪総合文化センターがあったおかげです。『11匹のねこ』以外にも、素敵な思い出はいっぱいあります。その文化センターがなくなり、400席のホールに建て替えるとは・・・暴拳としかいえません。400席では、キャパが小さくて、上演できるものは限られます。名古屋などの大都市に出かければよいではないかと言われそうですが、問題は、文化を大切にする風土が瑞浪にあるのかということです。第6次瑞浪市総合計画には以下のような記述がありました。（二つ） 400席のホールは、この計画に沿っていません。今の総合文化センターは耐震工事したばかりなのに、SDGsの観点からも納得できません。また「これまでの検討」に明記してある市民のみなさんのご意見・ご要望が、偏狭な気がしてなりません。</p> <p>駅北開発のテーマと直接関係はありませんが、通所型サービスB稲津いなほの活動をこの4月より始めました。身近に高齢者の方と接すると、今の自分は気が付かなかったさまざまな生活の困りごとが見えてきました。そんな情報を共有すること、困り感を共有する事が大切だと思います。困っていることをみんなで共有する場に行政の人たちに入ってもらって、要望したり要望を受けたりする関係ではなくて、いっしょにくらしをつくっていくという関係ができるといい。アンケートや意見交換会だけでは見えてこない市民の願いがわかるはずです。</p>			
市長の回答	担当課	都市計画課	
<p>満席になるイベントは消防団の入退団式や、成人式などがありますが、参加される人員に鑑みると400席あれば足りると判断します。また、現在と同規模の大きいホールを建設すれば、その分建設費がかかりますし、その後の維持・管理費も多額となります。瑞浪市の人口規模や人口減少社会に鑑みて、使い勝手が良く、稼働率が上がるような施設を建設します。</p> <p>新しい施設では、より身近に文化芸術に触れて頂き、文化活動や市民活動の輪が広がるような施設整備と運営を目指しており、多くの方が訪れる複合施設の中で、開放的に使えるホールや貸室とすることにより、文化活動・市民活動が目にとまりやすくなると思います。小規模でも多くの催しや発表会等が活発に開催されることで、文化芸術に触れるきっかけとなります。このように、施設の大きさではなく、使い方・使われ方を工夫し、これからも多くの人に素晴らしい体験や思い出を作りたいと思います。</p> <p>なお、令和4年度に実施した工事につきましては、利用者の安全に支障がある部分について、必要最低限の補強工事を実施したのみで、これにより施設全体の長寿命化を図ったものではありません。</p>			

地区名	稲津地区	番号	3
タイトル	新病院の経営の見通しについて		
ご意見の内容			
<p>東濃厚生病院ができる前の昭和病院や、新病院に統合する土岐総合病院には、東濃厚生病院にはない小児科や産婦人科があり、たくさんの患者がいた。ところが現在は患者が減り、医師も減り、寂しい病院となってしまった。また、市内の塚田レディースクリニックが産科を辞め、市内では子どもを産むことができなくなってしまった。</p> <p>このような現状をどう受け止めるか？また、新病院はそういったことが起きない見通しはあるのか？</p>			
市長の回答	担当課	健康づくり課	
<p>都市部の大きな病院とは違い、地方の病院は医師不足が顕著です。また、医療機器も高額なものが増え、地方の病院では揃えることが難しくなっています。そのような環境では、医師の確保も難しいのが現実です。</p> <p>医師が確保できないのは、様々な要因がありますが、ある程度の規模の病院を作ることによって、医療提供体制の充実を図ることができます。</p> <p>現在、新病院の医師の確保のため、JA岐阜厚生連のネットワークを使いながら、名古屋大学や他の医局にも声をかけている段階です。必要な医師数を確保できるように、今後も働きかけを継続していきますのでご理解のほどよろしくお願いいたします。</p> <p>【補足】 東濃厚生病院と土岐市立総合病院の統合により、医師確保を含め、将来にわたり継続的・安定的な医療提供が可能であると認識しています。市内で分娩を取り扱う医療機関はなくなりましたが、新病院では産婦人科医の確保の目途も立っています。統合後の新病院では診療機能の強化が図られ、東濃中部圏域から流出している患者も地元で診療できるようになると期待されます。</p>			

地区名	稲津地区	番号	4
タイトル	市政直行便について		
ご意見の内容			
<p>患那市の広報には、市民の意見を聞くためのはがきが毎月折り込んであり、匿名でも、要回答でも、誰でも簡単に投稿できるようになっている。市民からの幅広い意見を聞くため、このような方法を考えてみてはどうか？</p> <p>瑞浪市では、市役所の入り口に投函するための箱が設置されているが、実際にどのくらい利用されているのか？また、市民から寄せられて意見やそれに対する回答について、公表はされているか？</p>			
市長の回答	担当課	企画政策課	
<p>瑞浪市では、市政直行便として、令和4年度は約50件の意見をいただくなど、年間に数十件のご意見をいただいております。意見の集約方法については、市役所や総合文化センター、コミュニティーセンターに設置している市政直行便の箱または、市ホームページの市政直行便フォームから問い合わせをいただく形を取っており、寄せられた意見や回答の一部を広報みずなみにて紹介しています。</p> <p>私が市長になった当時「市民と行政の協働のまちづくり」を掲げて当選しました。地域の課題を解消するため連携を取り、一緒になって地域の活性化に取り組んでいきたいと考えております。そのため、市役所へ意見や考えを言いに来てください、というのではなく、市長と語る会のように、地域へ出向いて意見を直接伺う機会を大切に、皆さまの意見をしっかりと受け止めてきました。市主催の市長と語る会は12箇所で開催していますが、それ以外にも経済団体やスポーツ団体、医師会や青年会議所など、様々な団体から開催要望を頂き、年間50～60回ほど地域へ出向いてきました。</p> <p>また、かしくまった場では発言しにくいですが、もっと市民の生の声を聞いて欲しいという意見もあるため、時間が許す限り各地区のイベント等に参加し、直接、市民の意見を受け止めてきました。そのような場も大切な機会として、しっかりと市民の声を受け止めていきたい、忌憚ない意見を聞かせて欲しいという気持ちで市政にあたっていきたいと思っています。</p> <p>中学校の統合については、日吉町在住の子育て世代の母親からお声がけいただき、直接伺ったことがありました。そこで「瑞陵中学校に通いたい。日吉中学校には通わせたくない。」という意見が出て、すぐに教育委員会に連絡をしました。その後、学区制審議会を立ち上げ、学校について検討を行ったところ「小学校は統合してほしくないが、中学校は統合してほしい」という意見が多数上がり、中学校の統合へとつながりました。時代の流れや、子どもの数が減っている現実に見合うような教育環境を整えるため、すぐに行動に移しました。</p> <p>このように、市長と語る会などで皆さまからいただいた意見は市政に反映させていただいています。今後も市民の皆様と一緒に話し合っ、より良い瑞浪市をつくっていきたくと思っていますので、よろしくお願いいたします。</p>			